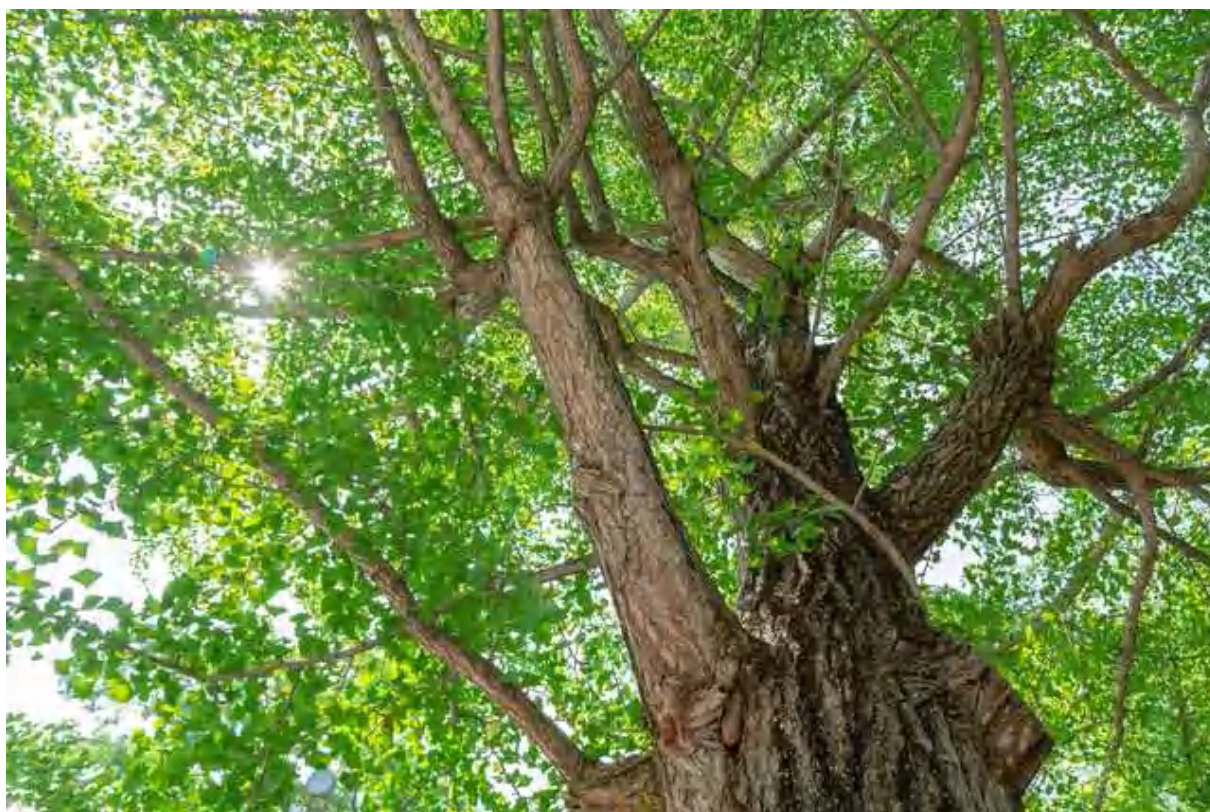


エコアクション 21

環境活動レポート

2015 年度

(2015 年 4 月～2016 年 3 月)



2016 年 6 月 6 日

株式会社ケムコ

目次

| | 頁 |
|---|----|
| 1. 組織の概要 | 2 |
| 2. 対象範囲 | 5 |
| 3. 用語 | 6 |
| 4. 環境方針 | 7 |
| 5. 環境目標 | 8 |
| 6. 環境活動計画 | 9 |
| 7. 環境目標の実績 | 10 |
| 8. 環境活動計画の取組結果とその評価, 次年度の取組内容 | 11 |
| 9. 次年度の環境目標 | 13 |
| 10. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果ならびに違反, 訴訟等の有無 | 14 |
| 11. 代表者による全体評価と見直しの結果 | 15 |

1. 組織の概要

1.1 事業所名及び代表者

株式会社ケムコ

代表取締役社長 平山正紀

1.2 所在地

〒314-0014

茨城県鹿嶋市大字光3番地

1.3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 鹿島事業部長 根本裕通

担当部署 : 総務部（環境委員会事務局）

環境管理担当者 : 各務彰悟

連絡先 : TEL 0299-84-3615 FAX 0299-83-8080

URL : <http://www.kemuco.co.jp>

1.4 事業の概要

創立 : 1986年8月1日

資本金 : 2,000万円

株主 : エア・ウォーター株式会社（100%）

株式 : 非上場

事業内容

- 1) 工事・メンテナンス事業（土木、建設、機械・器具整備、電気・消防点検等）
- 2) 分析事業（計量証明事業等）
- 3) 出荷・請負業
- 4) 鋼板洗浄剤の製造販売及びその他商品販売事業

1.5 事業の規模

1) 活動規模

| 活動規模 | | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 |
|-------------|-------------------|---------|---------|---------|
| 工事等の件数 | (件) | 1,112 | 1,292 | 1,152 |
| 全社売上高 | (百万円) | 1,130 | 1,079 | 963 |
| 従業員数 | (人) | 62 | 63 | 62 |
| 事務所及び作業場等面積 | | | | |
| 事務所 | (m ²) | 190 | 190 | 190 |
| 作業場 | (m ²) | 1,419 | 1,386 | 1,386 |
| 平井寮 | (m ²) | 3,026 | 3,026 | 3,026 |

2) 建設現場等の概要及び件数

<元請工事・業務等>

| 工事・業務等の名称 | 規模 (金額) | 内容 | 環境配慮事項 | 使用建機等 | 公共 民間 |
|----------------|---------------|----------------------|--------------------|------------------------------------|----------|
| M社従業員通行箇所雨避け対策 | 1件 8百万円 | 歩行者用アーケード組立設置支柱基礎部掘削 | 使用機械による騒音・粉塵 | ユニック付トラック 路面掘削機 | 民間 |
| M社5号棟外壁塗装工事 | 1件 7百万円 | 仮設足場組払い 塗材塗付け | 塗材による周囲、 周辺への臭気 | ユニック付トラック 高圧洗浄機 | 民間 |
| M社2号棟外壁塗装工事 | 1件 5百万円 | 仮設足場組払い 塗材塗付け | 塗材による周囲、 周辺への臭気 | ユニック付トラック 高圧洗浄機 | 民間 |
| 製缶・配管工事 | 108件 26百万円 | 空調機更新 給排水設備配管工事等 | 使用機械による騒音・振動、粉塵 | ラフタークレーン ユニック付きトラック 溶接機 | 民間 |
| 機械・器具整備工事 | 128件 58百万円 | 機械据付、整備 | 使用機械による騒音・振動、粉塵 | ラフタークレーン ユニック付きトラック エアコンプレッサ | 民間 |
| 電気・消防工事 | 150件 19百万円 | 電気設備工事 消防設備設置工事 | 使用機械による騒音・振動、粉塵 | ラフタークレーン ユニック付きトラック 高所作業車 | 民間 |
| 土木・建築工事 | 82件 17百万円 | コンクリート打設 足場仮設工事等 | 使用機械による騒音・振動、粉塵 | ラフタークレーン ダンプトラック バックホウ | 民間 |

＜下請工事・業務等＞

| 工事・業務等の 名称 | 規模 (金額) | 内容 | 環境配慮事項 | 使用建機等 | 公共 民間 |
|---------------|-----------------|-------------------------|----------------------|------------------------------------|----------|
| 製缶・配管工事 | 5 件 3 百万円 | 空調機更新 給排水設備配管工 事等 | 使用機械による騒 音・振動, 粉塵 | ラフタークレーン ユニック付きトラック 溶接機 | 民間 |
| 機械・器具整備 工事 | 134 件 18 百万円 | 機械据付, 整備 | 使用機械による騒 音・振動, 粉塵 | ラフタークレーン ユニック付きトラック エアコンプレッサ | 民間 |
| 電気・消防工事 | 270 件 28 百万円 | 電気設備工事 消防設備設置工事 | 使用機械による騒 音・振動, 粉塵 | ラフタークレーン ユニック付きトラック 高所作業車 | 民間 |
| 土木・建築 | 272 件 85 百万円 | コンクリート打設 足場仮設工事等 | 使用機械による騒 音・振動, 粉塵 | ラフタークレーン ダンプトラック バックホウ | 公共 民間 |

2. 対象範囲

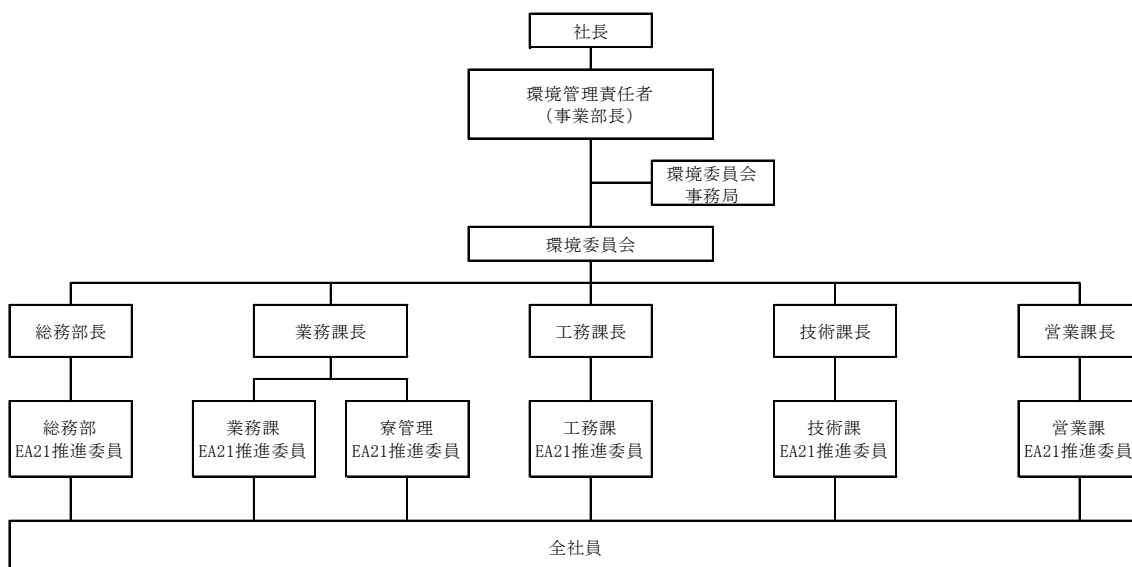
2.1 対象組織

全社が対象

2.2 対象活動

上記「1.4 事業の概要」の通り

2.3 EA21 実施体制（組織図）



エコアクション21実施体制図

<役割、責任及び権限>

- 1) 社長は、当社の業務を総理し、当社の環境活動の執行に関する最終の責任を有する。
- 2) 事業部長は、社長の指揮を受け、事業部の業務を掌理してその責に任ずる。
- 3) 課長は、事業部長の指揮を受け、課の業務を処理してその任に任ずる。
- 4) 環境管理責任者は、次に示す役割、責任及び権限を他の責任に関わり無く与えられる。
 - ・全社にわたる環境活動が確立され、実施され、かつ維持させることを確実にすること。
 - ・環境活動の改善、見直しの基礎として、環境活動の実績を収集、報告すること。
- 5) 環境委員会は、委員長を社長とし、年1回以上開催して環境活動に関する計画、実績の報告及び審議、承認を行う。
- 6) エコアクション21推進委員は、課長の指揮を受け、担当課、グループにおいて具体的な環境活動を推進する。

2.4 レポートの対象期間および発行日

対象期間：2015年4月～2016年3月

発行日：2016年6月6日

3. 用語

環境活動レポートを読んでいただくための助けとして、本文に含まれているいくつかの用語について解説します。

| 用語 | 解説 |
|-------------|---|
| 環境分析試験 | 水質汚濁防止法，大気汚染防止法等に基づいて，特定施設から排出される排水，ばい煙等に含まれる有害物質を測定し，環境基準に適合しているか調査する試験。 環境分析試験が増加することは，公害の調査に当社が関与する機会が増加することとなるので，環境保全に貢献できる。 |
| クリーンブラスト工法 | 圧縮空気を用いてドライアイスの微粉末を高速で吹き付けることで表面の汚れを除去する工法。 アルミナ等の吹き付け材を使用しないため，粉塵公害がおきない。また，ドライアイスはリサイクルされた二酸化炭素から製造するので，二酸化炭素の排出にはならない。 |
| 廃液からの塩化銀の回収 | 環境分析試験における水質分析で硝酸銀を試薬として使用する分析項目がある。この分析の廃液をそのまま廃棄すれば銀が無駄になる。廃液に含まれる硝酸銀は塩化銀にすることで回収が可能となる。 毎回実験終了後，発生した廃液は硝酸銀を塩化銀にする操作を行い，塩化銀を回収した後，廃棄する。回収した塩化銀はリサイクル業者に販売する。 |

4. 環境方針

環境方針

<基本理念>

株式会社ケムコは、事業活動のあらゆる分野において計り知れない恩恵を受けてきた自然や資源を大切に、地域及び環境との共生・調和を図ります。

<行動方針>

当社は、工事・メンテナンス事業や分析事業を始めとする多様な事業活動が、それぞれ環境に影響を与えていることを認識し、環境負荷の低減と、環境保全に貢献しうる事業の拡大を経営の優先課題と位置づけ、以下の方針を全ての従業員に周知し、もって全社員が参加して環境への取り組みを行います。また、啓発、教育活動を推進すると共に、地域社会の一員として地域・社会貢献活動を推進します。

1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大を目指します。
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善します。
3. 環境関連の法律や条令等を遵守します。

2013年9月1日
株式会社ケムコ
代表取締役社長

平山正紀

5. 環境目標

2013, 2014 年度の実績を基に 2015 年度（中期目標年度）の目標を以下のように設定しました。

ケムコでは、電力および水使用量は寮を除き事務所所有者が管理しているため、これらを測定値として把握できません。そこで、電力および水使用量は、寮以外の使用量については設備、機器、照明等の規格の合算値として推定し、これに寮の電力および水使用量の測定値を合算して算出しました。電力および水使用量の推定は 2010 年に実施したため、二酸化炭素排出量および水資源投入量は 2010 年度をベースとした場合の削減量として評価することとしました。この際に、購入電力二酸化炭素排出係数は東京電力の 2009 年版（0.324 kg-CO₂/kWh）を使用しました。

化学物質（PRTR 法対象物質）は、当社では鋼板洗浄剤の原料として使用しているため削減することはむずかしいので、入在庫の記録に漏れないように管理することとしました。

| 環境方針 | 環境目標 | | | | |
|---|--|------|--|--|-----------------------------------|
| | 内容 | 担当部署 | 2013年度実績 | 2014年度実績 | 2015年度（中期目標年度）目標 |
| 1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大 | 1-1. 環境分析試験件数の増加 | 営業課 | 98百万円 | 124百万円 | 92百万円以上 |
| | | 技術課 | 1,743件 | 1,739件 | 1,800件以上 |
| | 1-2. クリーンプラスト工法実施の増加 | 工務課 | 8件 | 11件 | 12件以上 |
| 2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善 | 2-1. 二酸化炭素排出量削減 ^{*1} （電力、燃料使用量削減） （2010年度排出量：214,724 kg-CO ₂ ） | 全社 | 8,093 kg-CO ₂ 削減 （排出量：206,631 kg-CO ₂ ） | 4,043 kg-CO ₂ 削減 （排出量：210,681 kg-CO ₂ ） | 排出量 214,724 kg-CO ₂ |
| | 2-2. 産業廃棄物の低減 | | | | |
| | 1) 廃液から塩化銀の回収 | 技術課 | 9.76 kg/年 | 5.92 kg/年 | 5.92 kg/年以上 |
| | 2) 分析サンプルをリサイクルのために返却 | 技術課 | 100% | 100% （ドラム缶にして17本） | ドラム缶にして17本 |
| | 3) 確安のリサイクル | 業務課 | 8,834 t | 8,760 t | 8,577 t以上 |
| | 4) ドラム缶損傷ゼロ | 業務課 | 0件 | 1件 | 3件以下 |
| | 5) タイヤシヨベル延命対策 （8年以上使用を目標） | 業務課 | 使用前に日常点検を実施した | 使用前に日常点検を実施した | 日常点検の実施 |
| | 2-3. 水資源投入量削減 ^{*2} （2010年度使用量：6,188 m ³ ） | 全社 | 366 m ³ 増加 （使用量：6,554 m ³ ） | 376 m ³ 減少 （使用量：5,812 m ³ ） | 使用量 6,188 m ³ |
| | 2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 （グリーン化率 ^{*3} の拡大） | 総務部 | 50% | 41% | 50% |
| 2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収 | 全社 | - | 43.5 kg回収 | 70 kg回収 | |
| 3. 環境関連の法律や条令等を遵守 | 3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認 | 総務部 | 年2回実施 | 年2回実施 | 年2回実施 |
| | 3-2. PRTR法対象物質の適正管理 （「化学物質使用量削減」に該当） | 営業課 | 毎月出入管理表により数量確認 | 毎月出入管理表により数量確認 | 毎月出入管理表により数量確認 |

*1：購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.324 kg-CO₂/kWh（2009年度）を使用した。

二酸化炭素排出量削減は、2010年度排出量を基準とした削減量を記載した。

*2：水資源投入量削減は、2010年度投入量を基準とした削減量を記載した。

*3：グリーン化率（%）＝グリーン商品購入品目/全購入品目×100

6. 環境活動計画

環境活動は1年を通して実施し、その活動の具体的な内容を以下に示しました。

| 環境方針 | 内容 | 担当部署 | 環境活動計画 (具体的な内容) |
|---|--|-------------------------------|---|
| 1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大 | 1-1. 環境分析試験件数の増加 | 営業課 | 一年を通じて営業活動を実施する |
| | | 技術課 | 迅速・正確な分析による信頼度アップによる分析の受注（ISO9001遵守） |
| | 1-2. クリーンブラスト工法実施の増加 | 工務課 | 小型機をもっと活躍出来るようアピールし、受託件数の増加を図る |
| 2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善 | 2-1. 二酸化炭素排出量削減 ^{*1} (電力、燃料使用量削減) (2010年度排出量：214,724 kg-CO ₂) | 全社 | 節電、燃費の向上に努める |
| | 2-2. 産業廃棄物の低減 | | |
| | 1) 廃液から塩化銀の回収 | 技術課 | 塩化銀回収を分析操作の一部として習慣化し、継続化する |
| | 2) 分析サンプルをリサイクルのために返却 | 技術課 | 継続してサンプルの返却を確実にを行う |
| | 3) 硫安のリサイクル | 業務課 | こまめに不良品を溶かしリサイクル |
| | 4) ドラム缶損傷ゼロ | 業務課 | リフトでの移動積込時のドラム落下防止 |
| | 5) タイヤショベル延命対策 (8年以上使用を目標) | 業務課 | 年次点検、日常点検を確実に実施し、不具合箇所を早期発見してメンテナンスを実施する |
| | 2-3. 水資源投入量削減 ^{*2} (2010年度使用量：6,188 m ³) | 全社 | 節水等ムダをなくす |
| | 2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率 ^{*3} の拡大) | 総務部 | ・事務用品発注時購入リスト ・適切な商品選択 |
| 2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収 | 全社 | ペットボトル回収をリサイクル活動として習慣化し、継続化する | |
| 3. 環境関連の法律や条令等を遵守 | 3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認 | 総務部 | ホームページ等で法律などが変わっていないかどうか確認し、各部署へ遵守状況を確認する |
| | 3-2. PRTR対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当) | 営業課 | 毎月の出入管理表作成を継続する |

*1：購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.324 kg-CO₂/kWh（2009年度）を使用した。

二酸化炭素排出量削減は、2010年度排出量を基準とした削減量を記載した。

*2：水資源投入量削減は、2010年度投入量を基準とした削減量を記載した。

*3：グリーン化率（％）＝グリーン商品購入品目/全購入品目×100

7. 環境目標の実績

2015年度の環境目標の達成状況を以下にまとめました。

| 環境方針 | 環境目標の達成状況 | | | | | |
|---|--|---------|--------------------------------------|---|---------|------|
| | 内容 | 担当部署 | 2015年度 (中長期目標年度) 目標 | 2015年度 実績 | 達成率 (%) | 達成状況 |
| 1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大 | 1-1. 環境分析試験件数の増加 | 営業課 | 92百万円以上 | 114百万円 | 124% | A |
| | | 技術課 | 1,800件以上 | 1,960件 | 109% | A |
| | 1-2. クリーンプラスト工法実施の増加 | 工務課 | 12件以上 | 8件 | 67% | B |
| 2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善 | 2-1. 二酸化炭素排出量削減 ^{*1} (電力、燃料使用量削減) (2010年度排出量：214,724 kg-CO ₂) | 本社 | 排出量 214,724 kg-CO ₂ 以下 | 62,032 kg-CO ₂ 増加 (排出量：276,756 kg-CO ₂) | 71% | B |
| | 2-2. 産業廃棄物の低減 | | | | | |
| | 1) 廃液から塩化銀の回収 | 技術課 | 5.92 kg/年以上 | 6.28 kg/年 | 106% | A |
| | 2) 分析サンプルをリサイクルのために返却 | 技術課 | ドラム缶にして17本 | ドラム缶にして17本 | 100% | A |
| | 3) 硫酸のリサイクル | 業務課 | 8,577 t以上 | 8,800 t | 103% | A |
| | 4) ドラム缶損傷ゼロ | 業務課 | 3件以下 | 0件 | 100% | A |
| | 5) タイヤショベル延命対策 (8年以上使用を目標) | 業務課 | 日常点検の実施 | 日常点検実施 | 100% | A |
| | 2-3. 水資源投入量削減 ^{*2} (2010年度使用量：6,188 m ³) | 本社 | 使用量 6,188 m ³ 以下 | 1,562 m ³ 削減 (使用量：4,626 m ³) | 125% | A |
| | 2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率 ^{*3} の拡大) | 総務部 | 50% | 43% | 86% | A |
| 2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収 | 本社 | 70 kg回収 | 78kg回収 | 111% | A | |
| 3. 環境関連の法律や条令等を遵守 | 3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認 | 総務部 | 年2回実施 | 9月・3月実施 | 100% | A |
| | 3-2. PRTR対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当) | 営業課 | 毎月出入管理表により数量確認する | 毎月出入管理表により数量確認した | 100% | A |

*1：購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.324 kg-CO₂/kWh (2009年度)を使用した。

二酸化炭素排出量削減は、2010年度排出量を基準とした削減量を記載した。

*2：水質資源投入量削減は、2010年度投入量を基準とした削減量を記載した。

*3：グリーン化率 (%) = グリーン商品購入品目/全購入品目×100

達成状況A：達成率8割以上（適合），達成状況B：達成率6割以上（適合），達成状況C：達成率6割未満（不適合）

以上のように、「1-2. クリーンプラスト工法実施の増加」および「2-1. 二酸化炭素排出量削減」は達成率がそれぞれ 67%および 71%であり、達成状況はいずれも B でした。その他の項目については達成率が 80%以上であり、達成状況は A でした。

「1-2. クリーンプラスト工法実施の増加」は、得意先の合理化で定期修繕の頻度が減

少し、2014年度より受注件数が3件減少しました。

「2-1. 二酸化炭素排出量削減」は、通年にはない廃プラスチックの産業廃棄物を排出したことにより二酸化炭素排出量が増加しました。廃プラスチックの排出は営業活動により獲得した業績の結果として発生したもので、1年限りのものです。

8. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

1) 環境活動計画の取組結果

環境活動計画の年間を通しての実施状況を以下にまとめました。

| 環境方針 | 内容 | 担当部署 | 環境活動計画 | 実施状況 |
|---|--|-------------------------------|---|--|
| 1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大 | 1-1. 環境分析試験件数の増加 | 営業課 | 一年を通じて営業活動を実施する | 年間を通じて積極的に営業活動を行った |
| | | 技術課 | 迅速・正確な分析による信頼度アップによる分析の受注（ISO9001遵守） | 精度と納期にこだわって分析を行った |
| | 1-2. クリーンプラスト工法実施の増加 | 工務課 | 小型機をもっと活躍出来るようアピールし、受託件数の増加を図る | 他の工事受注時にその都度アピールした |
| 2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善 | 2-1. 二酸化炭素排出量削減 ^{*1} (電力、燃料使用量削減) (2010年度排出量：214,724 kg-CO ₂) | 全社 | 節電、燃費の向上に努める | ・節電はスイッチの近くに節電シールを貼付しアピールした ・燃費向上は朝会でのエコ活動唱和でアピールした |
| | 2-2. 産業廃棄物の低減 | | | |
| | 1) 廃液から塩化銀の回収 | 技術課 | 塩化銀回収を分析操作の一部として習慣化し、継続化する | 習慣化し、必ず回収するようにした |
| | 2) 分析サンプルをリサイクルのために返却 | 技術課 | 継続してサンプルの返却を確実に行う | 習慣化して行っている |
| | 3) 確安のリサイクル | 業務課 | こまめに不良品を溶かしリサイクル | スケジュールに従って毎日行っている |
| | 4) ドラム缶損傷ゼロ | 業務課 | フォークリフトでの移動積込時のドラム落下防止 | 路面状態が悪い場所の運転は、速度を落とすなどして慎重におこなった |
| | 5) タイヤショベル延命対策 (8年以上使用を目標) | 業務課 | 年次点検、日常点検を確実に実施し、不具合箇所を早期発見してメンテナンスを実施する | 故障しないように気を使って毎日点検した |
| | 2-3. 水資源投入量削減 ^{*2} (2010年度使用量：6,188 m ³) | 全社 | 節水等ムダをなくす | 節水シールを貼付してこまめな節水を行った |
| | 2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率 ^{*3} の拡大) | 総務部 | ・事務用品発注時購入リスト ・適切な商品選択 | 購入リストを作成し、発注時に適切な商品選択を行って発注するようにした |
| 2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収 | 全社 | ペットボトル回収をリサイクル活動として習慣化し、継続化する | ペットボトルの分別を確実にを行い、資源として取り扱うように習慣付けた | |
| 3. 環境関連の法律や条令等を遵守 | 3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認 | 総務部 | ホームページ等で法律などが変わっていないかどうか確認し、各部署へ遵守状況を確認する | 年2回、各部署の遵守状況を確認した |
| | 3-2. PRTR法対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当) | 営業課 | 毎月の出入管理表作成を継続する | 毎月必ず出入管理表を作成した |

*1：購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.324 kg-CO₂/kWh（2009年度）を使用した。

二酸化炭素排出量削減は、2010年度排出量を基準とした削減量を記載した。

*2：水資源投入量削減は、2010年度投入量を基準とした削減量を記載した。

*3：グリーン化率（%）＝グリーン商品購入品目/全購入品目×100

- 2) 環境目標の実績および環境活動計画の取組結果の評価ならびに次年度の取組内容
 2015年度の環境目標の達成状況および環境活動計画の実施状況について以下のよう
 に評価しました。また、今年度の評価を基に次年度の取組内容を定めました。

| 環境方針 | 内容 | 担当部署 | 評価ならびに次年度の取組内容 |
|---|--|-------------------------------------|--|
| 1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大 | 1-1. 環境分析試験件数の増加 | 営業課 | 活動計画通り営業活動を行った結果、1年間で124%の達成率であった。次年度も積極的に営業活動する。 |
| | | 技術課 | 目標に対して109%の達成率をあげる事ができた。次年度も試験件数増加出来る様、活動を続ける。 |
| | 1-2. クリーンプラスト工法実施の増加 | 工務課 | 中電ブローワー7回、Cガスブローワー1回で合計8回実施することができた。下期は中電で作業費削減が入り受注件数が減少したが、達成率は60%以上となった。なかなか目標に到達しないため、次年度は工夫して目標が達成できるように活動を継続する。 |
| 2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善 | 2-1. 二酸化炭素排出量削減 ^{*1} (電力、燃料使用量削減) (2010年度排出量：214,724 kg-CO ₂) | 全社 | 全社として、不要電気等節電やエコドライブ等に努めていたが、廃プラスチック産廃処分など営業活動により増加してしまった。産廃処分については一過性のものであり、達成率は60%以上のため、排出量削減活動を維持継続する。 |
| | 2-2. 産業廃棄物の低減 | | |
| | 1) 廃液から塩化銀の回収 | 技術課 | 試薬廃液から塩化銀の回収を行い、6.28kg回収できた。次年度も廃液から塩化銀の回収を行う。 |
| | 2) 分析サンプルをリサイクルのために返却 | 技術課 | 分析サンプルは総計ドラム缶17本であった。すべて返却した。次年度も分析サンプルすべて返却できるよう活動を実施する。 |
| | 3) 確安のリサイクル | 業務課 | 計画通りに実施し、8800tリサイクルを行うことができた。次年度もこまめに不良品を溶かして可能な限りリサイクルを行う。 |
| | 4) ドラム缶損傷ゼロ | 業務課 | ドラム缶横持ち作業時、取り扱いに注意し作業を行った。 |
| | 5) タイヤンヨベル延命対策 (8年以上使用を目標) | 業務課 | 活動計画通り年次点検、日常点検、メンテナンスを実施し、故障が無い様に運用できた。今後は消耗品の予備品購入し、故障した場合でも早期修理が可能になるよう準備する。このテーマは活動が日常化し、当初の目的は充分達成できると考えられるのでテーマとしてはこれで終了とする。来年度は新たなテーマで活動する。 |
| | 2-3. 水資源投入量削減 ^{*2} (2010年度使用量：6,188 m ³) | 全社 | こまめな節水を行っている。次年度も維持継続する。 |
| | 2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進 (グリーン化率 ^{*3} の拡大) | 総務部 | 購入リストに基づき購入した結果、グリーン化率は年間で43%であり、達成率は86.5%であった。次年度も活動を継続する。 |
| 2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収 | 全社 | ペットボトル78kgを回収し、リサイクル実施した。次年度も活動を行う。 | |
| 3. 環境関連の法律や条令等を遵守 | 3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認 | 総務部 | 計画通り9月と3月に遵守状況を確認した。その結果、各部署ともに従うべき法令を遵守していることが確認できた。次年度も活動継続する。 |
| | 3-2. PRTR法対象物質の適正管理 (「化学物質使用量削減」に該当) | 営業課 | 活動計画に従って月末棚卸しで出入管理表作成を実施している。次年度も継続する。 |

*1：購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.324 kg-CO₂/kWh（2009年度）を使用した。

二酸化炭素排出量削減は、2010年度排出量を基準とした削減量を記載した。

*2：水質資源投入量削減は、2010年度投入量を基準とした削減量を記載した。

*3：グリーン化率（%）＝グリーン商品購入品目/全購入品目×100

9. 次年度の環境目標

2015年度が中期目標年度であるため、これまでの結果を踏まえて新たに3年間（2016～2018年度）の中期目標を以下のように設定しました。購入電力二酸化炭素排出係数は東京電力の2015年版（0.496 kg-CO₂/kWh）を使用しました。

| 環境方針 | 環境目標 | | | | | |
|---|--|---------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | 内容 | 担当部署 | 2015年度実績 | 2016年度目標 | 2017年度目標 | 2018年度（中長期目標年度）目標 |
| 1. 環境保全に貢献しうる事業の拡大 | 1-1. 環境分析試験件数の増加 | 営業課 | 114百万円 | 120百万円 | 125百万円 | 130百万円 |
| | | 技術課 | 1960件 | 2000件以上 | 2000件以上 | 2000件以上 |
| | 1-2. クリーンプラスト工法実施の増加 | 工務課 | 8件 | 10件以上 | 10件以上 | 10件以上 |
| 2. 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化、リサイクルをより推進できる方法に日常業務を改善 | 2-1. 二酸化炭素排出量削減 ^{*1} （電力、燃料使用量削減） | 全社 | 358,957 kg-CO ₂ | 350,000 kg-CO ₂ | 350,000 kg-CO ₂ | 350,000 kg-CO ₂ |
| | 2-2. 産業廃棄物の低減 | | | | | |
| | 1) 廃液から塩化銀の回収 | 技術課 | 6.28 kg/年 | 6 kg/年 | 6 kg/年 | 6 kg/年 |
| | 2) 分析サンプルをリサイクルのために返却 | 技術課 | ドラム缶にして17本 | ドラム缶にして17本 | ドラム缶にして17本 | ドラム缶にして17本 |
| | 3) 硫安のリサイクル | 業務課 | 8,800 t | 8,500 t | 8,500 t | 8,500 t |
| | 4) ドラム缶損傷ゼロ | 業務課 | 0件 | 3件以下 | 3件以下 | 3件以下 |
| | 5) フレキシブルホースの使用本数削減 | 業務課 | 4本 | 3本以下 | 3本以下 | 3本以下 |
| | 2-3. 水資源投入量削減 ^{*2} | 全社 | 4,626 m ³ | 4,600 m ³ | 4,600 m ³ | 4,600 m ³ |
| | 2-4. 環境に配慮した商品の購入を推進（グリーン化率 ^{*3} の拡大） | 総務部 | 43.2% | 50% | 50% | 50% |
| 2-5. 一般廃棄物削減 ペットボトルリサイクルのための回収 | 全社 | 78 kg回収 | 80 kg回収 | 80 kg回収 | 80 kg回収 | |
| 3. 環境関連の法律や条令等を遵守 | 3-1. 環境関連の法律や条令等の定期的遵守確認 | 総務部 | 9月、3月の2回実施 | 年2回実施 | 年2回実施 | 年2回実施 |
| | 3-2. PRTR法対象物質の適正管理（「化学物質使用量削減」に該当） | 営業課 | 毎月出入管理表により数量確認 | 毎月出入管理表により数量確認 | 毎月出入管理表により数量確認 | 毎月出入管理表により数量確認 |

*1：購入電力二酸化炭素排出係数は、東京電力0.496kg-CO₂/kWh(2015年度)を使用した。

二酸化炭素排出量削減（電気使用量削減）の電気使用量は推定使用量とした。

*2：水資源投入量削減の水資源使用量は推定使用量を記載

*3：グリーン化率（%）＝グリーン商品購入品目/全購入品目×100

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反および訴訟はありません。また、過去 3 年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

適用される法規制等と遵守状況は環境関連法規等の遵守状況のチェック結果に基づいて記載しました。

| 法規制の名称 | 具体的取り組み事項 | 遵守状況 |
|---|--|------|
| 1. 環境一般 ・環境基本法 ・地球温暖化対策の推進に関する法律 ・人の健康に係る公害犯罪の処罰に関する法律 | 目的を理解し、事業活動に反映させる | ○ |
| 2. 水質汚濁・海洋汚染 ・海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律 ・港則法 ・船舶安全法 ・水質汚濁防止法 | ・海上輸送のための容器およびラベルの管理 ・岸壁荷役時の港湾水質汚濁防止 ・船舶の安全のための容器の使用基準 ・公共水域への水質汚濁物質の排出防止 | ○ |
| 3. 廃棄物・リサイクル ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ・建設リサイクル法 | ・産業廃棄物の排出管理 ・建設副産物の管理 | ○ |
| 4. 化学物質・危険物 ・毒物及び劇物取締法 ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の促進に関する法律 ・消防法 | ・鋼板洗浄剤製造における化学物質の管理 ・鋼板洗浄剤製造における特定化学物質の管理 ・CDQ 粉コークスの防火管理 | ○ |
| 5. 地域協定・条例等 | ・茨城県地下水採取の適正化に関する条例 | ○ |
| 6. エア・ウォーター株式会社ケミカルカンパニーとの業務協定書、環境マネジメント覚書 | 出荷請負業務の基準 | ○ |
| 7. その他 ・計量法 ・作業環境測定規則 ・放射性同位元素による放射線障害防止に関する法律 | ・水質、大気、騒音、振動の計量証明事業の管理 ・労働安全衛生法に基づく作業環境測定の管理 ・ECD ガスクロマトグラフの管理 | ○ |

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション 21 の活動に取り組んで今年で 10 年目になるが過渡期に来ていると感じている。エコアクション 21 を始めたころよりも取組み内容は各環境推進委員が創意工夫して活動しやすい内容に改善されているが、理詰めでないところも見受けられるので更に改善を期待する。エコアクション 21 の活動は会社として必要なものなので各環境推進委員は今まで以上に知恵を出して進めてほしい。

2015 年度まで実施した 3 年間の中期活動計画に基づいた実績が報告され、その内容については満足している。また、その結果から新たに作成した 2016～2018 年度中期環境目標および環境活動計画については承認する。現在のところ、環境目標に対して意識付けが足りない箇所もあるので各自が活動する際には、何をどのようにするのか原点に戻って環境推進委員を中心に各職場で話し合ってもらいたい。加えて、業務課が来年度から新しいテーマに挑戦してくれる。これは今年度までの活動を踏まえ、環境活動を更に発展させたものとする。環境目標は環境委員会で承認されれば変更できるので、各課共に常に見直しを行い有意義な環境活動をお願いしたい。

環境システム自体については特に問題はないと判断し、現状のまま継続をお願いする。

代表取締役社長 平山正紀